

帝国の墓場

アフガニスタンと中国の今後

やまぐち いさみ
山口 勇
(しがく総合研究所)

2021年8月末米軍がアフガニスタン・イスラム共和国より撤退した。アフガニスタンは、19世紀以降大国の手を焼かせてきた国家であり「帝国の墓場」とも呼ばれている。アフガニスタンからのアメリカの撤退は、もう一つの大国である中国の国家政策にどのような影響があるのだろうか。本稿では、アフガニスタンの現状と歴史を踏まえて、中国への影響を考察する。

1. アフガニスタン基礎情報

まずアフガニスタンの基礎情報から整理す



アフガニスタンの位置 *1

制しよう
としてい
る麻薬を
売りさば
いている
国家なの
だ。加え
て、テロ
組織が現
政権のタ
リバン、

アルカイダ、イスラーム国、その他にも多数存在しており非常に危険な状況である。

そんなアフガニスタンは大国の手を焼かせてきた歴史がある。

2. 帝国の墓場—アフガニスタンの歴史

始まりは、19世紀前半。当時はイギリスと



19世紀 イギリスとロシアの勢力圏地図 *2

イギリスからの独立後、国王主導で西洋近代化を目指すも国王側に反発した勢力がソ連に接近する。一方でイスラーム法に

ロシアが対立しており、アフガニスタンは両国の緩衝地帯に位置づけられていた。アフガニスタンは、ロシアの南下政策を食い止めようとするイギリスから2度度度侵攻を受け、イギリスの保護国となる。しかし、1918年にガンジーなどが率いる反英運動が活発化し、アフガニスタンは独立を果たす。

る。アフガニスタンは、ユーラシア大陸の中心、中国の隣に存在する多民族国家である。日本からみればアフガニスタンは隣国の隣国だ。
経済力は、2020年のGDPが約2兆円と日本の250分の1程度であり、「アフガン政府予算の7割から8割は国際支援で賄われている」と駐アフガニスタン米大使経験者の話をロイター通信は伝えている。また、アヘンやヘロインの原料となるケシの一大産地で、2020年に世界で流通したアヘンの8割超はアフガニスタン産とされる。国連が統



③ 一帯一路構想の通り道 *3

アフガニスタンがアフガニスタン安定化のために介入していたので、中国が手を焼くことはなかった。しかし、アメリカがアフガニスタン撤退をしたため、今後に関して中国もアフガニスタン情勢に注意する必要がある。中国とタリバンはかねてから友好的な関係を築いてきたので、タリバン

いので、アフガンの安定は中国にとって非常に重要なのだ。
2000年代は米国がアフガニスタン安定化のために介入していたので、中国が手を焼くことはなかった。しかし、アメリカがアフガニスタン撤退をしたため、今後に関して中国もアフガニスタン情勢に注意する必要がある。中国とタリバンはかねてから友好的な関係を築いてきたので、タリバン

基づく国家建設を目指す勢力もあり、国内が分裂する。ソ連の援助により、社会主義勢力が実権を握るもアメリカとの均衡政策を取り、ソ連の傀儡にはならなかった。統一されないアフガニスタンに対してソ連侵攻が始まるも、アフガニスタンは抵抗しきって、ソ連を撤退させた。
ソ連が撤退した後、2001年9月11日にテロ組織のアルカイダがアメリカに同時多発テロを行う。首謀者であるオサマ・ビンラディンを匿っていたタリバンはアメリカから武力行使を受けることとなる。一時タリバンは制圧され、アメリカに協力する政権が打ち立てられるも、再度タリバンが抵抗を始めてアフガニスタン情勢は不安定化した。9・11以降20年間の戦争において、米国はおよそ約880兆円を費やしたとの試算もある。多大な費用をアメリカに投入させ、アフガニスタ

ンにはアメリカを撤退させた。
アフガニスタンはイギリス・ソ連・アメリカという大国の手を焼かせてきた。あらゆる大国の武力制圧も成功させなかったことから「帝国の墓場」と呼ばれるようになる。現在の大国であるアメリカはアフガニスタンから撤退したが、もう一つの大国である中国にとってどのような影響があるのか。

3. 中国のアフガニスタン戦略

中国が進めている一帯一路構想、その通りにアフガニスタンは位置している。よって、アフガニスタンと良好な関係を構築する必要はある。しかし、新疆ウイグル自治区で100万人以上のイスラーム教徒を拘束していると言われており、イスラーム国家であるアフガニスタンを刺激する恐れがある。政治的に不安定であればあるほど、テロも発生しやす

政権は中国に攻撃しないと約束しているもののその意思が末端組織まで浸透しきっていないと考えられる。実際に10月8日にはテロ組織であるイスラーム国がアフガニスタン北部でテロを行った。イスラーム国はテロを行った動機を「タリバンが中国の指示に従って、ウイグル排斥を行っているからだ」と示している。中国を敵視していると明言しており、不安定化の材料となる。今後、中国は新疆ウイグルと一帯一路のためにも帝国の墓場と呼ばれるアフガニスタンに関与せざるを得なくなるだろう。

*1 一般財団法人日本国際協力システム「アフガニスタンの地図」
*2 朝日新聞GLOBE+「アフガニスタンとタリバンを解説 グレートゲーム、ソ連侵攻、9・11テロ、米国の空爆」
*3 JETRO「一帯一路」構想とASEAN・ミャンマーとの親和性」